

## 地方都市部における小学生の遊びに関する調査研究(4)福井県福井市小学校の地区特性別の特徴

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-12-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 粟原, 知子, 熊澤, 栄二 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10098/10522">http://hdl.handle.net/10098/10522</a>

地方都市部における小学生の遊びに関する調査研究 (4)  
 - 福井県福井市小学校の地区特性別の特徴 -

正会員 ○ 栗原 知子\*  
 正会員 熊澤 栄二\*\*

子ども 小学生 遊び  
 地区特性 福井 生活

1. 背景と目的

子どもは遊びを通して自主性や創造性、社会性など様々な能力を身につける。しかし、子どもの遊び環境の悪化が指摘されてから既に40年以上が経過しており、近年では日本の都市部に限らず地方都市でも進行している。また、少子化、過疎化等の社会問題に加え、スマートフォン等のIT機器の登場で、子どもの生活環境は大きく変化した。さらにライフスタイルの多様化の影響も加わり、小学校区の地区特性によっても遊び環境に格差が生じ始めていると考えられる。

よって本研究では、現代の地方都市部（福井県福井市）の小学生の生活や遊び実態を明らかにすることを目的とする。本稿では特に、福井市の地区特性別に余暇時間（平日の放課後及び休日）の過ごし方及び遊びの実態について考察する。

2. 調査概要

福井県福井市の小学校9校の2, 4, 6年生を対象に2017年6月～7月の2カ月間でアンケート調査を実施した。各クラス担任の立会いのもと調査を実施し、合計643名の児童から回答を得た。調査概要と児童の基本属性は表1の通りである。

回答者の性別は、男子 51.3%、女子 48.7%、学年は、2年生 29.5%、4年生 34.2%、6年生 36.2%であった。本稿では、前稿での学年別特徴を考慮し<sup>1)</sup>、2年生未実施の1校を分析対象から省き、全8校で考察を進める。対象校8校は地区の特性別に「中心市街」「郊外」「農山村」<sup>2)</sup>の3種に分類し、それぞれ回答者の所属は、39.3%、40.1%、20.5%であった。児童クラブ、スポーツ少年団の利用はいずれも「農山村」>「中心市街」>「郊外」で、「農山村」で高かった。

また、世帯構成人数（図1）は、「農山村」は6人以上で構成される世帯が半数以上を占め、規模が大きく、反対に「郊外」は規模が小さかった。

3. 余暇時間の利用

a) 1週間当たりの塾・習い事日数（図2）

日数の多さは、「中心市街」>「郊外」≧「農山村」であったが、「なし」の割合を見ると「郊外」は最も高く、「郊外」での二極化傾向がうかがえる。

b) TV・DVD視聴時間（図3）

平均視聴時間は「郊外」>「農山村」>「中心市街」の順で長く、どの地区も9割以上が視聴していた。

c) IT機器使用時間（図4）

PC、タブレット端末、スマートフォン等の使用時間は、「使わない」割合が「農山村」>「郊外」>「中心市街」の順に多かったが、使用者の平均時間を見ると「郊外」

表1. 調査概要及び回答者の基本属性

生活と遊びに関するアンケート調査			
調査期間	2018年6月～7月		
調査方法	各クラス担任立会いのもと授業時間に実施		
回収率	94.1% (回収数643/配布数666)		
調査対象者	校 2, 4, 6年生 643名 (※1校のみ2年生未実施)		
性別	男子 325 (51.3%)	女子 308 (48.7%)	
学年	2年生 190 (29.5%)	4年生 220 (34.2%)	6年生 233 (36.2%)
調査対象校の地区特性(8校)	中心市街(2校) 202 (34.1%)	郊外(3校) 258 (43.6%)	農山村(3校) 132 (22.3%)
児童クラブ等	利用42 (22.1%) なし148 (77.9%)	利用39 (15.5%) なし212 (84.5%)	利用30 (23.8%) なし96 (76.2%)
スポーツ少年団	利用66 (32.8%) なし135 (67.2%)	利用75 (29.8%) なし177 (70.2%)	利用52 (40.6%) なし76 (59.4%)

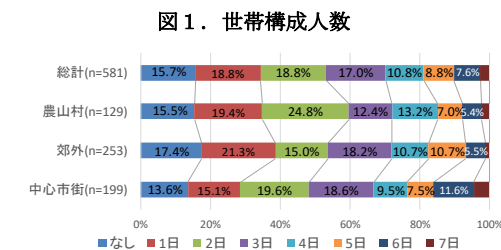
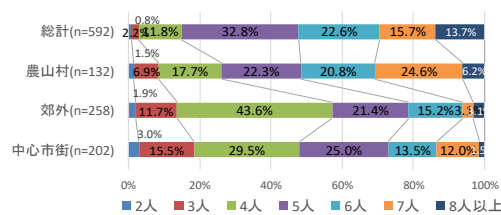


図2. 1週間当たりの塾・習い事日数

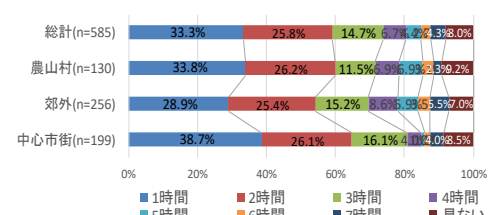


図3. TV・DVD視聴時間

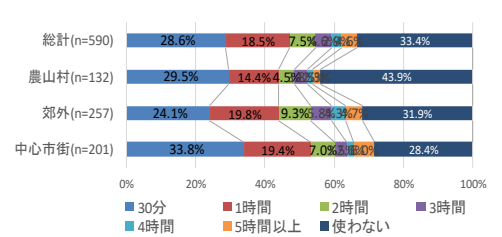


図4. IT機器使用時間

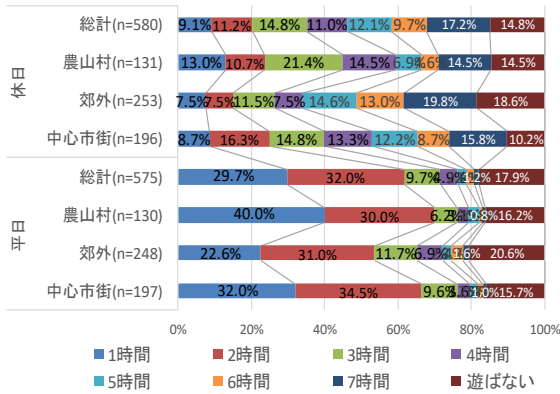


図5. 平日及び休日の遊び時間

> 「中心市街」 > 「農山村」で長くなる傾向があり、「郊外」での二極化傾向がうかがえる。

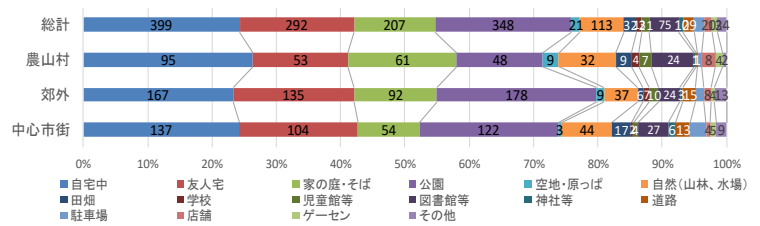


図6. よく行く遊び場所

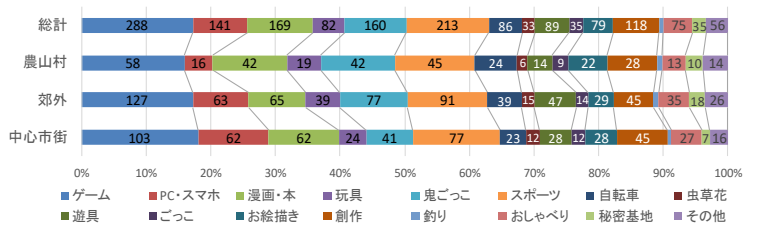


図7. よくする遊び

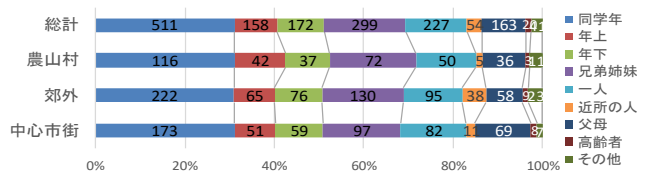


図8. よく遊ぶ仲間

#### 4. 遊び状況

##### a) 平日放課後及び休日の遊び時間 (図5)

平日休日共に「遊ばない」割合が高いのは「郊外」で2割弱の児童が「遊ばない」と回答した。一方で、遊んでいる児童の平均遊び時間を見ると、平日休日共に「郊外」>「中心市街」>「農山村」の順に長く遊んでおり、「郊外」は二極化傾向、「農山村」は遊び時間が短い傾向にあった。

##### b) 遊び場所：上位3つまで選択 (図6)

「自宅」「友人宅」など住宅内で遊ぶ割合は「中心市街」>「郊外」>「農山村」の順に高く、いずれの地区も住宅及びその周辺、公園が多く使われている。特に、「郊外」はその傾向が強く、「農山村」「中心市街」は「郊外」に比べると自然や図書館の利用が高い。

##### c) 遊び内容：上位3つまで選択 (図7)

「ゲーム」や「PC・スマホ」「漫画・本」等の情報系の遊びは「中心市街」>「郊外」>「農山村」の順に多く、逆に「鬼ごっこ」「スポーツ」「自転車」等の体を使った遊びは「農山村」>「郊外」>「中心市街」の順に多く、「お絵描き」「創作」等の創作系の遊びは「農山村」≧「中心市街」>「郊外」の順で多かった。

##### d) 遊び仲間：上位3つまで選択 (図8)

「同学年」の割合はどの地区も同じであったが、「年上」「年下」「兄弟姉妹」等、異年齢の割合は「農山村」でやや高くなった。「郊外」は「父母」の割合がやや低かったが「近所の人」の割合が高かった。

#### 5. おわりに

以下の通り、結論をまとめる。

- 1) 塾・習い事の日数は「中心市街」で多かった

- 2) メディア視聴、IT 機器使用平均時間は「郊外」で長い
- 3) IT 機器使用率は「中心市街」が最も高い
- 4) 1日の平均遊び時間は「郊外」が長く「農山村」が短い傾向にあるが、「郊外」は遊ばない児童の割合も高く二極化の傾向がうかがえる
- 5) 遊び場所は「農山村」が屋外遊びの傾向が高く、遊び場の選択肢が豊富だった
- 6) 遊び内容は「農山村」が多様な遊びを展開しており、遊び仲間も異年齢集団の傾向が高かった

#### 【注】

- 1) 中心市街1校は、6年生のみ調査を実施した。前稿で学年別分析の際に、2年生の結果に特徴があったため、本稿では中心市街(n=253)に対する未実施児童数の割合が大きいため、1校を省き、中心市街の対象校2校を分析対象とした。
- 2) JR 福井駅から半径3km圏内かつ私鉄沿線の校区を中心市街、その周辺地域で新興住宅地を含み生徒数500名以上の校区を郊外、山沿いや海岸に近い地域を農山村としている。

#### 【参考文献】

1. 仙田満, 子どもの遊び環境, 鹿島出版会, 6(2009)
2. 栗原知子他, 地方都市部における小学生の遊びに関する調査研究(3)福井県福井市の小学生の生活と遊び実態, 日本建築学会北陸支部研究報告集, 7(2018)

※本研究は平成24年度科学研究費補助金によって実施しました

\*福井大学国際地域学部 講師・博士 (工学)

\* Snr. Assis. Prof., School of Global and Community Studies, Univ. of Fukui, Dr. Eng.

\*\*石川工業高等専門学校 教授・博士 (工学)

\*\* Prof., Dept. of Architecture Ishikawa NCT, Dr. Eng.